



Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Release 6.0(171.0) リリース ノート

Published June 8, 2007

このリリース ノートでは、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Release 6.0(171.0) の新規サポートと変更されたサポート、新機能と変更された機能、制限と制約事項、および未解決の警告と解決済みの警告について説明します。

Cisco Software Center の Web サイト(<http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml>)で、Web Conferencing の全バージョンの最新ソフトウェア アップグレードにアクセスできます。



(注)

ソフトウェア ダウンロード ページにアクセスするには、登録ユーザとして Cisco.com にログインする必要があります。

目次

このリリース ノートは、次の項で構成されています。

- [システム要件 \(P.2\)](#)
- [関連資料 \(P.3\)](#)
- [新規および変更された要件とサポート : Release 6.0\(171.0\) \(P.4\)](#)
- [新機能 : Release 6.0\(171.0\) \(P.8\)](#)
- [変更された機能 : Release 6.0\(171.0\) \(P.14\)](#)
- [インストールとアップグレードの情報 \(P.15\)](#)
- [制限および制約事項 \(P.16\)](#)
- [警告 \(P.18\)](#)
- [マニュアルの更新 \(P.22\)](#)
- [トラブルシューティング情報 \(P.29\)](#)
- [技術情報の入手方法、サポートの利用方法、およびセキュリティ ガイドライン \(P.30\)](#)



システム要件

この項では、次の情報について説明します。

- [Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing 6.0 の要件 \(P.2\)](#)
- [互換性の情報 \(P.2\)](#)
- [ソフトウェアバージョンの確認 \(P.3\)](#)

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing 6.0 の要件

『Cisco Unified MeetingPlace Release 6.0 システム要件』に、Web Conferencing の要件に関する最新情報が記載されています。このドキュメントは、
http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html (英語版) から入手できます。

互換性の情報

- Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing 6.0 と他の Cisco Unified MeetingPlace コンポーネントとの互換性については、
http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products_device_support_tables_list.html (英語版) にある『互換性マトリクス : Cisco Unified MeetingPlace コンポーネント』を参照してください。
- Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Release 6.0 は、Cisco Security Agent for Cisco Unified MeetingPlace Release 6.0(171.0) に対応しています。
- Web Conferencing サーバでは、次のサードパーティ製ソフトウェアがサポートされています。ただし、そのソフトウェアが Cisco Unified MeetingPlace の動作を中断させないように設定されている場合に限りです。
 - McAfee VirusScan Enterprise バージョン 8.0i 以降
 - Microsoft Windows Terminal Services



注意

Terminal Services (WTS) は、Web Conferencing のインストールでもアップグレードでもサポートされていません。WTS を使用すると、インストール プロセスまたはアップグレード プロセスが失敗する可能性があります。

- Virtual Network Computing (VNC は、Web Conferencing のインストールおよびアップグレードでサポートされている)

サポートされていないサードパーティ製品を導入すると、シスコの製品サポートに影響する可能性があります。



注意

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing ソフトウェアのインストール プロセスでは、パフォーマンスを微調整するために、特定の IIS 設定が行われます。IIS にコンポーネントを追加したり IIS 設定を変更したりするサードパーティ製ソフトウェアをインストールすると、Web Conferencing のパフォーマンスが低下する可能性があります。

ソフトウェアバージョンの確認

この項では、次のソフトウェアのバージョンを確認する手順について説明します。

- [Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing \(P.3 \)](#)
- [Cisco Unified Presenter Add-In \(P.3 \)](#)

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing ソフトウェアのバージョンを確認する

Web ブラウザを起動して Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing のホーム ページに移動します。ページの下部にソフトウェアのバージョンが表示されます。

Cisco Unified Presenter Add-In

Cisco Unified Presenter Add-in が PC にインストールされている場合は、次の手順を使用して、ソフトウェアのバージョンを確認します。

Cisco Unified Presenter Add-In のバージョンを確認する

- ステップ 1** Web ブラウザを起動して Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing のホーム ページに移動します。
 - ステップ 2** Web Conferencing にサインインし、[即時会議] をクリックします。会議室が開きます。
 - ステップ 3** 会議室のメニューで、[ヘルプ] をクリックします。
 - ステップ 4** [Cisco MeetingPlace について] をクリックします。ウィンドウの下部に Cisco Unified Presenter Add-in のバージョンが表示されます。
-

関連資料

Cisco.com の Cisco Unified MeetingPlace のマニュアルの説明および場所については、『*Documentation Guide for Cisco Unified MeetingPlace*』を参照してください。このマニュアルは、Cisco Unified MeetingPlace に同梱されており、http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products_documentation_roadmaps_list.html で入手できます。

新規および変更された要件とサポート : Release 6.0(171.0)

この項では、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Release 6.0(171.0) タイム フレームだけの新規および変更された要件とサポートについて説明します。以前のバージョンの Web Conferencing での新規サポートおよび変更されたサポートについては、該当するバージョンのリリース ノートを参照してください。 http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_release_notes_list.html で、Web Conferencing の全バージョンのリリース ノートを手に入れます。

Web Conferencing 動作中のサーバ時間調整がサポートされない

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Release 6.0 は、Windows Time Service を使用して Audio Server とクロックを同期させるように Windows サーバを自動的に設定します。システム上で Web Conferencing が動作している間に、コンピュータのクロックを調整することはできません。システムのクロック タイムを調整する場合、または NTP 同期化を行う場合は、Web Conferencing サービスをシャットダウンする必要があります。

ブラウザの要件とサポート

Release 6.0 で、ブラウザの要件とサポートが変更されました。エンド ユーザの Web ブラウザで Java が必須でなくなり、その代わりに Adobe Flash Player が必須になりました。

このリリースでは、以前からサポートされているブラウザに加えて、次のような新しいオペレーティングシステムと Web ブラウザの組み合わせがサポートされています。

オペレーティングシステム/バージョン	サポートされている Web ブラウザ
Windows Vista	Microsoft Internet Explorer 7.0 以降
Apple Macintosh OS 10.2、10.3、10.4 ¹	Firefox 1.5 Mac Safari 1.1、1.2、または 2.0
Sun Solaris 9 以降 ²	Firefox 1.5
RedHat 9 以降 ²	Firefox 1.5 以降

1. Cisco Unified Presenter Add-In がインストールされている場合、サポートされているすべての Macintosh オペレーティングシステムは、フル会議コンソールを使用でき、かつアプリケーションを共有できるようになりました。
2. Solaris システムおよび Linux システムでは、デスクトップからの画面共有およびファイル共有を使用できません。これらのシステム上のユーザは、ホワイトボードまたは会議の添付の共有、共有ファイルの表示、および注釈の作成を行うことができますが、システム上のファイルを他の参加者と共有することはできません。



(注) ブラウザのサポートおよび Web Conferencing キャパシティに関する詳細な最新情報については、http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html (英語版) にある『Cisco Unified MeetingPlace Release 6.0 システム要件』を参照してください。

Cisco Security Agent for Cisco Unified MeetingPlace のサポート

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing サーバで Cisco Security Agent for Cisco Unified MeetingPlace がサポートされるようになりました。インストール手順については、http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_release_notes_list.html の『Release Notes for Cisco Security Agent for Cisco Unified MeetingPlace』を参照してください。

Microsoft SQL Desktop Engine (MSDE) がサポートされない

このリリースでは、データベース エンジンとしての MSDE の使用がサポートされなくなりました。

MCS サーバのサポート

このリリースでは、次の新しい MCS サーバ モデルがサポートされています。

- Cisco MCS-7835-H2-RC1
- Cisco MCS-7835-I2-RC1
- Cisco MCS-7845-H2-RC1
- Cisco MCS-7845-I2-RC1

このリリースでは、次の MCS サーバがサポートされなくなりました。

- Cisco MCS 7835H-3.0-IPC1
- Cisco MCS 7835I-3.0-IPC1
- Cisco MCS 7845H-3.0-IPC1



(注)

MCS サーバのサポートおよび Web Conferencing キャパシティに関する詳細な最新情報については、http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html (英語版) にある『Cisco Unified MeetingPlace Release 6.0 システム要件』を参照してください。

コンポーネントに必要な新規ライセンス

Cisco Unified MeetingPlace Release 6.0 は、Web Conferencing 用の新しいライセンス使用モデルを導入しました。このモデルでは、Web から Cisco Unified MeetingPlace 会議に参加するユーザに、ライセンス要件の異なる次の 2 つの会議コンソール形式のいずれかが表示されます。

フル機能の会議室	共有やコラボレーション用のツール、セッション中コントロール、およびその他の機能 (チャットや投票など) を含みます。 各参加者に、使用可能な Web 会議ライセンスが必要です。
参加者リストのみ	会議参加者のリストおよび関連付けられている音声コントロールとビデオ コントロール (音声のミュートやビデオの一時停止など) だけを含みます。 この会議コンソールを使用する場合、Web 会議ライセンスは不要です。この機能は、音声ポートのライセンスに含まれています。

会議で参加者に表示される会議コンソール形式は、会議スケジュール担当者のプロフィールの [Host Meetings With] 設定によって決まります。Web 会議ライセンスの使用を計画する場合は、Web Conferencing サーバのライセンス キャパシティを考慮して、どのグループまたはユーザにフル機能の会議室での会議をスケジュールできるようにするかを決定してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products_installation_and_configuration_guides_list.html (英語版) の『Cisco Unified MeetingPlace Audio Server コンフィギュレーションガイド Release 6.x』に記載されている手順に従って、Web 会議ライセンスを Audio Server に追加します。

Segmented Meeting Access-1 Server 構成がサポートされない

Release 6.0 では、以前のリリースの Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing でサポートされていた Segmented Meeting Access-1 Server (SMA-1S) 構成がサポートされなくなりました。

Web Conferencing サーバに必要な 2 つの IP アドレス

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Release 6.0 には、次のネットワーク要件があります。

- 2 つの別個の IP アドレスが必要である。
- それらの IP アドレスが、同じネットワーク セグメント上に存在する必要がある (両方が、同じレイヤ 3 サブネットおよび同じレイヤ 2 イーサネット ブロードキャスト ドメインに接続されている必要があります)。

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing は、次の Network Interface Card (NIC; ネットワーク インターフェイス カード) 構成を使用して、2 つの必要な IP アドレスを割り当てることをサポートしています。

<p>1 枚の NIC が有効で、その NIC に 2 つの IP アドレスが設定されており、もう 1 枚の NIC は無効</p>	<ul style="list-style-type: none"> • システム上の 2 枚の NIC の 1 枚だけを使用します。 • この NIC はシングル ポイント障害です。 • この構成は、HP MCS サーバ モデルと IBM MCS サーバ モデルの両方で使用できます。
<p>両方の NIC が有効で、NIC ごとに 1 つの IP アドレス</p>	<ul style="list-style-type: none"> • システム上の各 NIC が使用されます。ただし、一方の NIC が他方の NIC よりも頻繁に使用される可能性があります。 • それぞれの NIC がシングル ポイント障害です。どちらかの NIC に障害が発生すると、Web Conferencing を使用できなくなります。 • Web Conferencing サーバが 100 MB/秒のネットワークに接続されている場合、アプリケーション共有負荷の高い大規模な会議では、NIC のキャパシティを超える可能性があります。 • この構成は、HP MCS サーバ モデルと IBM MCS サーバ モデルの両方で使用できます。
<p>両方の NIC が有効で、チームになっており、Transmit Load Balancing (TLB) モードに設定されている</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 2 枚の NIC が連携して両方の IP アドレスのトラフィックを処理します。1 枚の NIC が着信トラフィックを受信し、両方の NIC が発信トラフィックを送信します。 • どちらかの NIC に障害が発生した場合、もう一方の NIC が作業を引き継ぐことができます。 • Web Conferencing サーバが 100 MB/秒のネットワークに接続されている場合は、この構成を強くお勧めします。 • この構成は、HP MCS サーバ モデルに限り使用できます。
<p>両方の NIC が有効で、チームになっており、Network Fault Tolerance (NFT) モードに設定されている</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 1 枚の NIC がアクティブで、両方の IP アドレスのトラフィックを処理します。 • もう 1 枚の NIC はパッシブで、プライマリ NIC に障害が発生した場合にその作業を引き継ぎます。 • この構成は、HP MCS サーバ モデルに限り使用できます。

Web Conferencing のマニュアル

この項では、このリリースで使用できる新しい製品マニュアルを示します。

Cisco Unified MeetingPlace コンポーネントの互換性マトリックス

Cisco Unified MeetingPlace Audio Server と Cisco Unified MeetingPlace コンポーネントのサポートされているバージョンの組み合わせを示す最新のリストについては、

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products_device_support_tables_list.html (英語版) にある 『 互換性マトリックス : Cisco Unified MeetingPlace コンポーネント 』 を参照してください。

新機能 : Release 6.0(171.0)

この項では、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Release 6.0(171.0) だけの新機能について説明します。以前のバージョンの Web Conferencing での新機能については、該当するバージョンのリリース ノートを参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_release_notes_list.html で、Web Conferencing の全バージョンのリリース ノートを手に入れます。

Cisco Unified Personal Communicator ユーザが Cisco Unified MeetingPlace Web 会議を開始できる

Cisco Unified Personal Communicator ユーザは、ホワイトボード、デスクトップ、アプリケーション、またはドキュメントを共有およびコラボレーションするために、Cisco Unified Personal Communicator クライアントからアドホック Cisco Unified MeetingPlace Web 会議を開始できます。このアドホック会議には、Cisco Unified MeetingPlace 音声が含まれていません。参加者は、Cisco Unified Personal Communicator クライアントで会議室に参加できますが、会議にダイヤルインすることも、会議室から電話にダイヤルアウトすることもできません。

Cisco Unified Personal Communicator から開始されるアドホック Web 会議には、さらに次のような特性があります。

- 会議にはランダムな会議 ID が割り当てられる。会議を開始するユーザの予約不要 ID は使用されません。
- 会議の存在は公開されない。ユーザは [会議の検索] ページを使用して会議を見つけることができません。また、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing のホーム ページで会議 ID を入力して会議に参加することも、Cisco Unified MeetingPlace Phone View を使用して会議に参加することもできません。
- 会議はパスワード保護されない。
- 会議の電子メール通知が生成されない。
- 会議は、共有ツールだけを含む特別な会議テンプレートを使用する。すべての会議参加者は、プレゼンタ権限を持ちます。

Flash ベースの音声と Web の記録および Web だけの記録

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing では、音声だけの記録、音声と Web が同期された記録、および Web だけの記録という 3 つのタイプの記録がサポートされています。

音声と Web の会議では、ユーザが会議を記録する場合、音声だけの記録と Flash 記録 (Adobe Flash Player で再生) という 2 つの記録が作成されます。Flash 記録では、会議中の音声ストリームとすべての会議コンソール アクティビティが同期された再生が提供されます。Flash 記録は、会議の Web 会議部分が始まる時に開始されます。これより前に記録された音声は、音声だけの記録でしか再生できません。

Web コンポーネントを持つが音声コンポーネントを持たない会議が記録される場合、Flash 記録は会議コンソール アクティビティで構成されます。音声と Web の記録と同様に、ユーザが Web だけの記録にアクセスすると、Adobe Flash Player でその記録が再生されます。

ブロードキャスト プロンプト (入席時や退席時のアナウンスなど) は記録されないことに注意してください。さらに、会議にビデオ コンポーネントがある場合、ビデオ映像は記録されません。

Cisco Unified MeetingPlace Audio Conferencing ライセンスを購入する場合、音声記録は標準機能です。音声と Web が統合された記録または Web だけの記録には、リッチ メディア記録オプションの購入が必要です。

Flash ベースの会議コンソール

Release 6.0 では、Java ベースの会議コンソールが、新しい Adobe Flash ベースのクライアントに置き換えられました。このクライアントでは、エンド ユーザ コンピュータ上で Adobe Flash Player を必要とします。Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing のホームページ上のリンクから実行できるブラウザ テストは、ユーザが Adobe Flash Player をインストールする際に役立ちます。

次の各項では、会議コンソールの新機能についてさらに詳しく説明します。

- [会議コンソール アクセス権 \(P.9\)](#)
- [会議コンソールの機能とツール \(P.9\)](#)
- [プレゼンテーションでのアニメーションのサポート \(P.10\)](#)
- [会議室の背景の変更 \(P.11\)](#)
- [接続帯域幅の最適化 \(P.11\)](#)
- [会議コンソールから新しい参加者を追加するための招待またはダイヤルアウト \(P.11\)](#)
- [参加者の結合 \(P.11\)](#)
- [Linux と Unix の会議コンソールのサポート \(P.11\)](#)

会議コンソール アクセス権

会議に参加するユーザには、次の 3 つの会議コンソール アクセス権のいずれかが付与されます。

- **主催者**：主催者は会議を完全に制御できます。たとえば、会議コンソールのレイアウト変更、参加者の招待、名前変更、または退席、参加者のアクセス権の変更、会議の終了などを行うことができます。
- **プレゼンタ**：プレゼンタは、プレゼンテーション、ドキュメント、およびアプリケーションの共有、メモおよび投票の変更、リスナーの質問に対する回答を行うことができます。
- **リスナー**：リスナーは、共有コンテンツ、ホワイトボード、およびメモの表示、ファイル共有ツールで共有されたファイルのダウンロード、および会議内での投票を行うことができます。コンテンツの共有、ホワイトボードへの注釈の追加、ファイル共有ツールでのファイルのアップロード、およびメモの変更を行うことはできません。

会議コンソールの機能とツール

表 1 に、Flash ベースの会議コンソールで使用できる機能の概要を示します。表 2 では、会議の操作性をカスタマイズするためにレイアウト内で使用および組み合わせできるツールについて説明します。

表 1 会議コンソールの機能

機能	説明
メニュー	[会議] および [ヘルプ] の各メニューにより、さまざまなセッション中機能に論理的にアクセスできます。主催者には、[表示] [レイアウト] および [ツール] メニューも表示されるため、プレゼンタおよび参加者の会議コンソールに表示される項目を制御および整理できます。ユーザのゲストステータスまたは会議コンソール アクセス権が原因で使用できないメニュー項目は、淡色表示されます。
会議の詳細	会議 ID やダイヤルイン情報などの会議の詳細は、ユーザが会議コンソールの右上隅にある電話アイコンをクリックすると表示されます。
接続の詳細	会議コンソールの遅延および現在のアップストリームとダウンストリームの接続レートに関する情報は、ユーザが会議コンソールの右上隅にある緑色のバーをクリックすると表示されます。

表1 会議コンソールの機能 (続き)

機能	説明
ステージ	会議室のステージは、会議ですべての参加者に表示される画面領域です。ステージには、スライド、ビデオ、共有ウィンドウ、共有アプリケーションなど、さまざまなタイプのコンテンツを表示するツールウィンドウが含まれています。
ツールウィンドウ	会議室のコンテンツは、ツールに表示されます。ツールとは、スライド、ビデオ、ホワイトボード、共有アプリケーション、投票、会議参加者へのメッセージなど、さまざまなタイプのメディアを含むウィンドウです。レイアウトとは、会議室と一緒に表示されるツールウィンドウの名前付き集合です。
レイアウト ナビゲーションバー	このツールバーは、主催者だけに表示されます。主催者は、このツールバーを使用して、会議室のレイアウトの切り替え、新しいレイアウトの追加、レイアウト内のツールの場所およびサイズのロックを行うことができます。また、準備モードに切り替えて、他の参加者の画面に影響を及ぼすことなく、会議室の複数のレイアウト間を移動できます。 デフォルトでは、新しい会議室には、会議に選択された会議テンプレートに応じて、いくつかの組み込みのレイアウトが含まれています (たとえば、コラボレーション テンプレートには、[共有] [ホワイトボード] [複数の共有] といったデフォルトのレイアウトが含まれています)。これらのレイアウトに含まれるツールを選択および配置して、コンテンツの共有、トピックのディスカッション、または同僚とのコラボレーションを促進できます。
プレゼンタ限定領域	ステージに隣接しており、主催者とプレゼンタだけに表示されます。主催者は、この領域を表示するか非表示にするかを選択できます。主催者およびプレゼンタは、プレゼンタ限定領域を使用して、リスナーと共有するコンテンツを準備したり、リスナーと共有しない機密のコンテンツを表示したりできます。

表2 会議コンソールのツール

ツール	説明
参加者リスト	各参加者の名前、ロール、およびステータスを表示し、主催者が1人以上の参加者のロールまたはアクセス権を変更できるようにします。
共有	プレゼンタのコンピュータからの共有コンテンツ (ウィンドウ、アプリケーション、またはデスクトップ全体を含む) 、ドキュメント、またはホワイトボードを表示します。
チャット	参加者が他の参加者にチャットメッセージを送信できるようにします。
Q & A (チャット ツールにリンク)	チャット ツールからの質問を適切なプレゼンタにリダイレクトします。
ノート	主催者またはプレゼンタからのテキスト メッセージをすべての参加者に表示します。
ファイル共有	主催者およびプレゼンタが、参加者によるダウンロードが可能なファイルを転送できるようにします。
投票	主催者およびプレゼンタが、投票を実施したり参加者に質問したりできるようにします。
Web リンク	主催者が Web リンクを転送し、すべての参加者にそのリンクを参照させることができるようにします。

プレゼンテーションでのアニメーションのサポート

プレゼンタは、Adobe Presenter で作成されたアニメーションとエフェクトを含む PowerPoint ファイルをアップロードして共有できます。アップロードされた PowerPoint ファイルは、プレゼンテーションに変換されます。プレゼンテーションは、プレゼンテーションをナビゲートするための追加のコントロールをプレゼンタに提供します。

会議室の背景の変更

会議の主催者は、会議室の背景として画像またはアニメーションを設定できます。主催者は、(スケジュールリング インターフェイスの [添付] ページから、または共有ツールから) 会議にロードされた添付のリストで、背景イメージを選択できます。カスタム テンプレートを作成できるユーザは、テンプレートの作成時に会議室の背景を設定して、そのテンプレートでスケジュールされたすべての会議にその背景がロードされるようにすることができます。

接続帯域幅の最適化

会議の主催者は、すべての参加者の接続速度情報を表示できます。参加者がさまざまな接続速度を使用している場合、主催者は、会議室の帯域幅レベルを選択して、会議からのデータが参加者に送信される速度 (キロビット / 秒) を決定できます。すべての参加者が良好な接続を確保することを保証するために、会議中に任意の参加者によって使用されている最も遅い速度に適合するよう会議室の帯域幅を設定する必要があります。

主催者は、参加者リスト ツールの参加者名の上にマウスのカーソルを置いて、参加者の接続速度を確認できます。主催者は、ネットワーク接続ステータス インジケータをオンにすることもできます。このインジケータでは、参加者リスト ツール内の各参加者名の横に、携帯電話の信号強度を示すバーに似たバーのグループが表示され、参加者の接続ステータスを示します。接続が現在の会議室の帯域幅を下回ると、アイコンのバーの数が減少します。

会議コンソールから新しい参加者を追加するための招待またはダイヤルアウト

会議の主催者は、会議室の [会議] メニューにある [参加者の招待] オプションを使用して、追加の会議参加者を招待するために送信できる URL を生成できます。[参加者の招待] ダイアログボックスでは、主催者が、新しい招待者に送信する URL やその他の会議情報を含む電子メール メッセージを作成することもできます。

会議の主催者は、[参加者リスト] の [音声 / ビデオのオプション] メニューにある [選択したユーザへの接続] オプションまたは [新しいユーザへの接続] オプションを使用して、新しい電話参加者にダイヤルアウトすることにより、その参加者を会議に追加できます。

参加者の結合

参加者が Web 会議にログインしてからオーディオ会議にダイヤルインすると、2 つのエントリが自動的に結合され、そのユーザについて 1 つの名前だけが表示されます。ただし、認識されていない電話番号で Cisco Unified MeetingPlace にダイヤルし、その後 Web 上の会議にログインした参加者は、リストに 2 回表示されることがあります。1 回は「Guest User (< 発信者番号 >)」と表示され、もう 1 回は Web 会議へのログイン時に入力したプロフィール名またはゲスト名で表示されます。参加者が 2 回表示されていることを認識した主催者は、[参加者リスト] の [ユーザの結合] 機能を使用して、2 つのエントリを 1 つにすることができます。

Linux と Unix の会議コンソールのサポート

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Release 6.0 では、Linux ユーザおよび Unix ユーザが、Windows ユーザおよび Macintosh ユーザによって使用されるものと同様の Flash ベースの会議コンソールを使用して、会議に参加できます。

これらのシステム上の参加者は、主催者アクセス権またはプレゼンタ アクセス権を持っている場合、ホワイトボードまたは会議の添付の共有、共有ファイルの表示、および注釈の作成を行うことができますが、システム上のファイルを他の参加者と共有することはできません。

会議テンプレート

会議テンプレートを使用すると、会議のスケジュール担当者は、会議室のレイアウトの指定、添付の追加、投票の作成、およびその他の会議パラメータの設定を行うことができます。これらの設定は、そのテンプレートを使用して会議を作成するたびに適用できます。スケジュール担当者が選択する会議テンプレートによって、会議招待者が会議に追加されるときに割り当てられるデフォルトのアクセス権も指定されます（ただし、そのアクセス権は、会議をスケジュールするとき、または会議中の任意の時点で変更できます）。

さまざまな会議形式に対応するために、Cisco Unified MeetingPlace には事前定義テンプレートが 3 つ用意されています。次の事前定義テンプレートを使用できます。

- **コラボレーション**：オープン フォーラム形式の会議であり、すべての参加者がデフォルトでプレゼンタ アクセス権を持ちます。
- **プレゼンテーション**：1 人または複数の参加者が、1 人または複数の参加者で構成されるアクティブリスナーに向けてプレゼンテーションを行う会議。
- **ウェブセミナー**：講義形式の会議であり、1 人の参加者が主催者を務め、1 人または複数のプレゼンタが存在し、残りの参加者が受動的なリスナー メンバーとなります。このタイプの会議では、リスナー メンバーの音声デフォルトでミュートされています。

ユーザは、そのプロファイルがフル機能の会議室での会議を主催できるように設定されている場合、会議をスケジュールするときにこれらのテンプレートのいずれかを選択することも、追加のカスタム テンプレートを作成して使用することもできます。プロファイルが参加者リストのみに設定されているユーザは、会議をスケジュールするときに、コラボレーション テンプレートまたはウェブセミナー テンプレートのいずれかを選択することしかできません。この場合、テンプレートは参加者の音声アクセス権だけに影響を及ぼします。

オンライン管理インターフェイスの機能拡張

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing のオンライン管理インターフェイスは、いくつかの点で機能が拡張されました。次の各項では、その機能拡張について説明します。

- [Reboot Server リンク \(P.12\)](#)
- [Shared Storage の設定 \(P.12\)](#)
- [SSL/TLS の設定 \(P.13\)](#)

Reboot Server リンク

メインの管理 Web ページにある [Reboot Server] リンクでは、Web ブラウザから Web Conferencing サーバマシンをシャットダウンして再起動できます。リンクをクリックすると、リブートの確認を求められます。

Shared Storage の設定

ストレージ領域は、音声および Web の記録とデータ添付の両方 (MeetingNotes と総称される) で必要になります。デフォルトでは、Web Conferencing サーバは、サーバ上で開催される会議のすべての MeetingNotes をローカル ディスクに格納します。オンライン管理インターフェイスの [Shared Storage] ページでは、外部バックアップ ロケーション (専用ストレージ サーバ上、ネットワーク接続されたストレージ デバイス上、またはストレージ エリア ネットワーク上の共有ネットワーク ドライブなど) に MeetingNotes をコピーするようストレージ設定を変更できます。

Web Conferencing サーバのロード バランシング クラスタの場合、以前インストール中に要求され、クラスタのメンバー間で共有されるストレージ領域を手動で設定した手順が、[Shared Storage] ページで実行する設定手順に置き換えられます。

SSL/TLS の設定

オンライン管理インターフェイスの [SSL/TLS] ページで、Web Conferencing サーバ上に Secure Sockets Layer (SSL) または Transport Layer Security (TLS) を簡単に設定できます。このページでは、各インターフェイスの証明書要求を生成し、証明書をサーバに追加して、SSL を有効にするプロセスが順に案内されます。

変更された機能 : Release 6.0(171.0)

この項では、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Release 6.0(171.0) だけの変更された機能について説明します。以前のバージョンの Web Conferencing で変更された機能については、該当するバージョンのリリース ノートを参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_release_notes_list.html で、Web Conferencing の全バージョンのリリース ノート入手できます。

ロード バランシングとフェールオーバーの動作

Web Conferencing サーバ クラスタのロード バランシングとフェールオーバーの動作は、Release 6.0 で変更されました。

Release 6.0 では、各 Web Conferencing サーバが、オリジン サーバおよびエッジ サーバと呼ばれる 2 つの別個のロード バランシング コンポーネントを含んでいます。会議はオリジン サーバで主催されます。参加者は、会議に参加するときにエッジ サーバに接続されます。これらのコンポーネントは、次のように対話してロード バランシング機能およびフェールオーバー機能を提供します。

- 会議が開始されるときに、Web Conferencing サーバは、現在アクティブな会議の負荷に基づいて、会議室にプライマリとバックアップのオリジン サーバを割り当てます。
- 会議に参加する参加者は、その時点で各エッジ サーバに接続されている参加者数に基づいて、クラスタ内のエッジ サーバ間でロード バランシングされます。エッジ サーバは、内部で、会議を主催しているオリジン サーバに接続します。
- 各クライアントは、会議室が起動されるときに、サーバによってプライマリ エッジ / オリジン およびバックアップ エッジ / オリジンの情報を提供されます。クライアント上での設定は不要です。

クラスタ内のサーバで障害が発生する場合、次のような動作が行われます。

- 参加者が接続されている Web サーバが応答を停止します (たとえば、コンピュータの電源が切れたり、Web Conferencing サービスがシャットダウンされたりします)。
- その Web サーバ上のエッジ サーバに接続されているユーザは、会議への接続を失います。
- 接続を失った各会議コンソール クライアントは、自動的に、そのエッジ サーバへの再接続を試みます。この試みが失敗した場合、会議コンソールは、当初会議に接続するときに受信したバックアップ情報を使用して、バックアップ エッジ サーバへの接続を試みます。

ロード バランシング クラスタ内でのビデオ動作

ロード バランシング構成では、ユーザによってビデオ会議がスケジュールされるときに使用される各 Web サーバに Cisco Unified MeetingPlace Video Integration をインストールしてから、クラスタ内の 1 つの Web サーバだけで Video Integration をアクティブにする必要があります。以前のリリースでは、ビデオをスケジュールする権限を持つユーザが会議をスケジュールした場合、ビデオ ポートがスケジュールされたかどうかに関係なく、デフォルトで、アクティブな Cisco Unified MeetingPlace Video Integration を持つ Web サーバ上で Web 会議コンポーネントが保持されていました。これにより、必要に応じて、アドホック ビデオを会議に追加することができました。

Release 6.0 では、ビデオをスケジュールする権限を持つユーザによってスケジュールされる会議が、アクティブな Cisco Unified MeetingPlace Video Integration を持つ Web サーバで主催されるという制約がなくなりました。クラスタ内のどの Web サーバでも、ビデオ ポートが使用可能である限り、アドホック ビデオなどのビデオ機能を提供できます。

インストールとアップグレードの情報

Microsoft Windows Terminal Services を使用した Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Release 6.0 のインストールまたは Release 6.0 へのアップグレードは、サポートされていません。

この項では、次の情報について説明します。

- [Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Release 6.0 の初めてのインストール \(P.15 \)](#)
- [Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Release 6.0 へのアップグレード \(P.15 \)](#)
- [インストールとアップグレードの注意事項 \(P.15 \)](#)

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Release 6.0 の初めてのインストール

Web Conferencing のインストール手順については、

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html (英語版) の『Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing インストール アップグレード ガイド Release 6.x』を参照してください。

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Release 6.0 へのアップグレード

Cisco Unified MeetingPlace バージョン 6.0 では、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing およびすべての Cisco Unified MeetingPlace 統合コンポーネントを、Microsoft Windows Server 2003 ベースの Cisco MCS オペレーティングシステムを実行する MCS サーバにインストールする必要があります。オペレーティングシステムを Windows 2000 Server ベースのバージョンから Windows 2003 ベースのバージョンに変更するには、新規インストールが必要です。シスコは、オペレーティングシステムを Windows 2000 ベースのバージョンから Windows 2003 ベースのバージョンにアップグレードすることをサポートしていません。

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Release 6.0 に移行するには、特定のデータ バックアップ手順を実行し、Windows 2003 ベースのオペレーティングシステムをインストールし、Cisco Unified MeetingPlace コンポーネントを再インストールして、データを復元する必要があります。Web Conferencing バージョン 6.0 に移行する手順については、

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_release_notes_list.html (英語版) の『Cisco Unified MeetingPlace Audio Server Release 6.0(0.25) リリースノート』にある「Cisco Unified MeetingPlace 6.0 へのアップグレード」の項を参照してください。

インストールとアップグレードの注意事項

VNC を使用した IBM MCS-7835I への Web Conferencing のインストール

IBM Director バージョン 4.11 以降を実行するサーバに、VNC を使用して Cisco Unified CallManager が以前にインストールされた場合、VNC を使用して IBM MCS-7835I に Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing をインストールするときの既知の問題があります。

この問題を回避するため、IBM MCS-7835I 上での Web Conferencing の新規インストールおよびアップグレードでは VNC を使用しないことを強くお勧めします。

詳細については、P.20 の「Bug Toolkit の使用方法」および警告 CSCsa39488 を参照してください。

制限および制約事項

- [大規模な会議のアプリケーション共有およびデスクトップ共有の考慮事項 \(P.16\)](#)
- [設定の制約事項 \(P.16\)](#)
- [シングルサインオンソフトウェア統合の考慮事項 \(P.16\)](#)

大規模な会議のアプリケーション共有およびデスクトップ共有の考慮事項

会議のパフォーマンスを最適に保つため、プレゼンタは、参加者が 350 人(または Web Conferencing サーバで SSL が有効である場合は 300 人)未満の会議に限りアプリケーション共有またはデスクトップ共有を使用することをお勧めします。大規模な会議では、プレゼンタが、プレゼンテーションに変換される PowerPoint ファイルを、(会議のスケジューリング ページから添付として追加することにより)会議前にアップロードするか、または(共有ツールの [ドキュメント]メニューから)会議中にアップロードして、会議室の中から PowerPoint プレゼンテーションを共有することをお勧めします。

設定の制約事項

製品の組み込み構成機能範囲を超えるか、または文書化された構成の設定、手順、または操作指示範囲を超えてカスタマイズされた Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing の展開については、シスコシステムズはサポートしません。このカスタマイズの例としては、Web ページ テンプレートの変更、HTML または Javascript コードの変更、IIS 実行パラメータの変更、カスタム .asp ページまたは ISAPI フィルタの適用、SQL サーバ構成または認証方法の変更、IPSec ポリシーおよび NTFS ACL による Windows OS セキュリティの変更などがあります。

シングルサインオンソフトウェア統合の考慮事項

- [シングルサインオンソフトウェア統合の条件 \(P.16\)](#)
- [シングルサインオンソフトウェア統合のサポート条件 \(P.17\)](#)

シングルサインオンソフトウェア統合の条件

- 顧客宅内機器 (CPE) を持つお客様が、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing サーバに Single Sign-On (SSO; シングルサインオン) ソフトウェア統合を実装する場合は、自己の責任の下で行ってください。また使用しているシステムへの SSO 統合の技術上の実装および実現可能性について理解する必要があります。
- SSO ソフトウェア統合は可能ですが、SSO ソフトウェア パッケージまたはベンダーのサポートは行いません。
- SSO ソフトウェア統合には、[Admin] ページを使用して Web Conferencing システムを正しく設定する必要があります。SSO ソフトウェア統合で Web Conferencing 製品のソースコードを変更する必要がある場合、その SSO 統合は SSO カスタマイズとなり、シスコはお客様またはその他の関係者によるカスタマイズはサポートしません。
- SSO パッケージを統合する CPE のお客様は、Cisco Managed Services に連絡して SSO を実装するためのサービス要求を入手できます。このサービスは便宜のために提供し、SSO 統合の対象範囲を変更するものではありません。このサービスは Web Conferencing 製品の統合および設定であり、製品コードのカスタマイズではありません。
- お客様はまずテスト サーバまたは実験用サーバに SSO ソフトウェア統合を実装して、Web Conferencing の機能および操作などの、統合されたシステムが動作することを確認してください。

- 統合された Web Conferencing-SSO システムの安定性の確認についてはお客様が行う必要があります。これには、次を目的とした SSO ソフトウェア ベンダーとのコミュニケーションなどがあります。
 - 必要なフィックスおよびサポートの取得。
 - SSO パッケージに起因する異常終了などの、機能上および技術上の問題のトラブルシューティング。
- SSO ソフトウェアには多くの場合、IIS ISAPI 拡張またはフィルタと呼ばれる Web サーバ拡張機能が組み込まれています。Web Conferencing は、4 つの IIS 拡張機能をインストールして使用します。SSO ソフトウェア拡張と Web Conferencing 拡張の間に互換性がない場合、IIS が機能しないか不安定になることがあります。SSO IIS 拡張が異常終了すると IIS が異常終了することがあり、また Web Conferencing 全体が停止して、システム全体が再起動され、進行中の会議が終了し、Web 会議のユーザが切断されることがあります。また、SSO パッケージまたはモジュールのメモリ リークにより、IIS またはサーバ全体が不安定になることもあります。
- SSO ソフトウェア統合は Web Conferencing システム用に製品化されていますが、Web Conferencing アップグレードおよび SSO パッケージアップグレードなどの構成全体にわたる変更によって、統合された Web Conferencing-SSO システムが破壊される可能性があります。

シングルサインオン ソフトウェア統合のサポート条件

- お客様は、Web Conferencing、Cisco Unified MeetingPlace for Outlook、または Cisco Unified MeetingPlace for Lotus Notes のサービス要求を開始する場合には、使用する Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing サーバにサードパーティのシングルサインオン (SSO) パッケージがインストールされて、Web Conferencing に設定されていることを Cisco TAC に通知する必要があります。
- お客様は、求められた場合に、SSO 統合の詳細内容を提示できる必要があります。詳細内容を提示できない場合、Cisco TAC はサービス要求を処理できないことがあります。
- サービス要求が SSO 統合のトラブルシューティングの場合、Cisco TAC はログを調査して、問題が SSO 側か Web Conferencing 側のいずれであるかを識別できます。問題が SSO 側の場合は、お客様に情報を提供して、お客様が SSO ベンダーと共に詳細にトラブルシューティングできるようにします。
- サービス要求が、SSO 統合と関係しないと思われる Web Conferencing の問題のトラブルシューティングの場合、Cisco TAC は通常のサポートプロセスと同様に処理します。SSO 統合が問題に関係していることを Cisco TAC が見つけた場合、お客様に情報を提供して、お客様が SSO ベンダーと共に詳細にトラブルシューティングできるようにします。
- 問題は SSO パッケージによって発生したと Cisco TAC が判断した場合、Cisco TAC は、SSO パッケージを無効にしてさらにトラブルシューティングすることをお客様に依頼することがあります。
- 問題が SSO パッケージによって発生したかどうかを判別する場合、IIS 異常終了およびメモリ リークのトラブルシューティングのために、Microsoft Debug Diagnostic ツール (DebugDiag と呼ばれる) が必要になることがあります。

警告

この項では、重大度 1、2、および 3 の警告を示します。

Bug Toolkit を使用すると、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing バージョン 6.0(171.0) の最新の警告情報を参照できます。また、どのリリースのどの重大度の警告でも参照できます。Bug Toolkit は、お客様がそれぞれのニーズに応じて障害のクエリーに使用できるオンライン ツールです。Bug Toolkit は、http://www.cisco.com/cgi-bin/Support/Bugtool/launch_bugtool.pl で使用できます。Bug Toolkit の使用方法については、P.20 の「Bug Toolkit の使用方法」を参照してください。



(注) Bug Toolkit にアクセスするには、登録ユーザとして Cisco.com にログインする必要があります。

この項では、Web Conferencing Release 6.0(171.0) だけの警告情報を示します。以前のバージョンの Web Conferencing での警告情報については、該当するバージョンのリリース ノートを参照してください。http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_release_notes_list.html で、Web Conferencing の全バージョンのリリース ノートを手に入れます。

未解決の警告 : Release 6.0(171.0)

「警告番号」カラムにあるリンクをクリックすると、Bug Toolkit 内のその警告に関する最新情報が表示されます（下記の警告は、まず重大度でソートし、次にコンポーネント、その次に警告番号でソートして表示されています）。

表 3 Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Release 6.0(171.0) の未解決の警告

警告番号	重大度	コンポーネント	説明
CSCsi62491	2	data-conf-breeze	WEB CLUSTER: web users got kicked out during load
CSCsi75937	2	data-conf-breeze	Webinar - video users stuck in Listener mode unless floor is opened
CSCsi62990	2	web	In-Conf action-Lock mtg doesn't take effect when system under load
CSCsf96859	3	data-conf-breeze	Breeze stops running when disk spaces is low
CSCsf96859	3	data-conf-breeze	Breeze stops running when disk spaces is low
CSCsh47159	3	data-conf-breeze	text annotation erratic behavior, such as missing words or characters
CSCsh81995	3	data-conf-breeze	All languages. Several button overlap each other
CSCsh86904	3	data-conf-breeze	Hold user feature doesnot work expected after downgrading users
CSCsi00908	3	data-conf-breeze	European languages. Browser test. Text transcated
CSCsi00992	3	data-conf-breeze	Language all. Participant list string not translated on Reservationless
CSCsi02725	3	data-conf-breeze	Language German Mac Safari Click on Screen Sharing gives error
CSCsi04483	3	data-conf-breeze	Language Portuguese Share menu is not localized
CSCsi04533	3	data-conf-breeze	Language Portuguese Slides bar is not localized
CSCsi06048	3	data-conf-breeze	Linux Client Only: Hand icon does not show up on listeners in waiting ro
CSCsi20358	3	data-conf-breeze	Language JPN—Presenter Add-in installer partially garbled on Win 2k
CSCsi20373	3	data-conf-breeze	Language JPN—File conversion error with Japanese name PPT
CSCsi25625	3	data-conf-breeze	Language JPN—chars not displayed when screen resolution not big
CSCsi27385	3	data-conf-breeze	Join meeting after Auto-promote aud-> present fails in permissions
CSCsi33759	3	data-conf-breeze	reserve audio unchecked, but still could outdial from within mtg console
CSCsi33800	3	data-conf-breeze	user stuck at loading mtg console if assigned edge server is unreachable

表 3 Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Release 6.0(171.0) の未解決の警告 (続き)

警告番号	重大度	コンポーネント	説明
CSCsi39719	3	data-conf-breeze	reservationless waiting room not appear if profile set Participant list
CSCsi67554	3	data-conf-breeze	Cisco Unified Web Conferencing Service sometimes fails to stop
CSCsi67554	3	data-conf-breeze	Cisco Unified Web Conferencing Service sometimes fails to stop
CSCsj00318	3	install_os	HTTP/1.1 100 Continue error produced runtime script errors on pages
CSCsi41509	3	mp-docs-web	Web does not have support for uninstall nor procedure exists
CSCsg15320	3	web	Mute-all from phone needs to mute each of the video participants
CSCsg75387	3	web	Not getting 100% success if 500 users tried a joining a single mtg
CSCsh55647	3	web	Clicking on Submit button gives warning Current/Past Meeting Invitees
CSCsi35184	3	web	Scheduler that join Webinar mtg as video user displayed as Listener
CSCsi35184	3	web	Scheduler that join Webinar mtg as video user displayed as Listener
CSCsi41348	3	web	Sometimes users that join Webinar mtg as dial in displayed as Speaker
CSCsi41602	3	web	web install should check for license options on audio server prior
CSCsi41614	3	web	Install should give bigger screen warn during the install and when done
CSCsi41623	3	web	install should log-in automaticaly w/o user interaction
CSCsi42553	3	web	MPV files not cleaned up after conversion is finished.
CSCsi74638	3	web	Meeting Template is not show up on the Current/Past pages/Participant
CSCsi77261	3	web	Check-in Localized Online help
CSCsi77980	3	web	Extra entries for video when attending on video in Invitees page and MT
CSCsi81069	3	web	Latency is high when Hi-Res application is shared
CSCsi81174	3	web	Reservationless mtg: Errors in event viewer Applog
CSCsi84698	3	web	Browser test info displayed on English instead of language/Meetingroom
CSCsi85029	3	web	MSM not setup but Past Meeting page shows MSM Link
CSCsi88252	3	web	Can't retritve MeetingRecording on loadbalancing system

解決済みの警告 : Release 6.0(171.0)

「警告番号」カラムにあるリンクをクリックすると、Bug Toolkit 内のその警告に関する最新情報が表示されます（下記の警告は、まず重大度で、次に警告番号でソートして表示されています）。

表 4 Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Release 6.0(171.0) の解決済みの警告

警告番号	重大度	コンポーネント	説明
CSCsh04865	1	web	Further mtg details page optimization - reduce calls for invited servers
CSCsh43071	1	web	MPAgent crash in CQueryStringEnumeration::nextElement
CSCsh79840	1	web	MPAgent doesn't restore connection with MPVideo after MPVideo crash
CSCsg70422	2	web	Web meeting details page takes too much time to process under heavy load
CSCsg95089	2	web	Replication service Error 12459: :[12459] Login failed
CSCsi02332	2	web	CTA link from backend notifications broken - when MPVideo misconfigured
CSCsi06146	2	web	Participant list does not display until one new event comes in
CSCsh41868	3	mp-docs-web	Help > Search does not work on Firefox browser
CSCsh21033	3	web	multiserver reoccurring meetings not getting created correctly
CSCsh39154	3	web	Conference list optimization
CSCsh39994	3	web	Sun Java 1.4.2_10 and 11 has GDI leak, to be excluded in browser test
CSCsh99332	3	web	Replication Svc crashes when there's a failure in Import Terminals
CSCsi20770	3	web	DB API login error
CSCsi22982	3	web	WebConnect: Updating scheduled meeting tries to roll in case of error
CSCsi49355	3	web	java script error in browser if mtg category is disabled
CSCsi71344	3	web	Eject failed : Error:[5151] No such participant for meeting.

Bug Toolkit の使用方法

Bug Toolkit にアクセスするには、インターネット接続、Web ブラウザ、および Cisco.com のユーザ ID とパスワードが必要です。Bug Toolkit の使用に関する詳細情報を参照するには、任意の Bug Toolkit ウィンドウで [Help] をクリックします。

Bug Toolkit を使用する

- ステップ 1** Web ブラウザを起動して、http://www.cisco.com/cgi-bin/Support/Bugtool/launch_bugtool.pl に移動します。
- ステップ 2** [Launch Bug Toolkit] リンクをクリックします。
- ステップ 3** 特定の警告に関する情報を検索するには、[Enter Known Bug ID] フィールドに ID 番号を入力します。

Cisco Unified MeetingPlace コンポーネントのすべての警告を表示するには、[Search for Bugs in Other Cisco Software and Hardware Products] セクションに移動し、[Product Name] フィールドに **meetingplace** と入力します。

- ステップ 4** リストで、[Cisco Unified MeetingPlace] を選択し、[Next] をクリックします。

ステップ 5 Cisco Unified MeetingPlace の検索ページで、検索結果を制限するためのオプションを設定します。使用可能なオプションのうち、任意のオプションまたはすべてのオプションを選択できます。

- a. 該当する Cisco Unified MeetingPlace バージョンを選択します。
 - メジャー リリースのメジャー バージョンを選択します。メジャー リリースには、重要な新機能、機能拡張、アーキテクチャの変更、障害フィックスが含まれています。
 - さらに限定された情報を得るには、リビジョンを選択します。リビジョン(メンテナンス) リリースには、主に、特定の問題に対する障害フィックスが含まれていますが、新機能または機能拡張が含まれている場合もあります。
- b. 該当する機能またはコンポーネントを選択します。[Available] リストから選択して [Add] をクリックし、選択した項目を [Limit Search To] リストに追加します。
- c. 警告のタイトルおよび説明を検索するためのキーワードを入力します。



(注) あまり限定的でないクエリーを実行するには、メジャー バージョン / リビジョン、機能 / コンポーネント、およびキーワードのオプションに All ワイルドカードを使用してください。

- d. 該当する高度なオプションを選択します。
 - [Bug Severity] : デフォルトは、重大度レベル 1 ~ 3 です。
 - [Bug Status Group] : 解決済みの警告を表示するには、[Fixed] チェックボックスをオンにします。
 - [Release Note Enclosure] : デフォルトは [Valid Release Note Enclosure] です。

ステップ 6 [Next] をクリックします。Bug Toolkit によって、警告のリストが返されます。



(注) 異なる基準で別のクエリーを送信して、結果を変更できます。後で使用するために、クエリーを保存することもできます。

マニュアルの更新

記載誤り

この項では、現在の Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing マニュアル内の記載誤りを示し、修正済みの情報を提供します。正しい情報は、特記されていない限り、今後のマニュアルリリースに組み込まれる予定です。

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing コンフィギュレーション ガイド : SSL およびセグメント化された DNS を使用する SMA-2S 構成について



(注) この項の情報は、*Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Release 6.x* のオンライン ヘルプ (管理者用) にも適用されます。

『*Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing コンフィギュレーション ガイド*』の「Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing への外部アクセスの設定」の章の「SSL およびセグメント化された DNS を使用する SMA-2S 構成について」の項に記載されている例で、外部マシンの SSL 証明書名が間違っています。

この SSL 証明書名は、*meetingplace1.company.com* という形式にする必要があります。SSL 証明書は、サーバの Fully Qualified Domain Name (FQDN; 完全修飾ドメイン名) を使用する必要があります。

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing コンフィギュレーション ガイド : Web Conferencing のデータ ストレージについて (英語版のみ)



(注) この項の情報は、*Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Release 6.x* のオンライン ヘルプ (管理者用) にも適用されます。

『*Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Configuration Guide*』の「Configuring Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing for Optimal Data Storage」の章の「About Web Conferencing Data Storage」の項に記載されている次の文は、間違っているため無視する必要があります。

Alternatively, you can configure a Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing server to mirror its storage to all other Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing servers in the cluster.

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing ユーザ ガイド : 共有ツールで共有できるドキュメントの種類



(注) この項の情報は、*Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Release 6.x* のオンライン ヘルプにも適用されます。

『Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing ユーザガイド』の「共有ツールで共有できるドキュメントの種類」の項に記載されている情報が間違っています。代わりに、次の情報を使用してください。

次のドキュメントの種類は、会議の添付として、またはコンピュータから、共有ツールで共有できます。

- 単一の PowerPoint ファイル (.ppt ファイル拡張子)
- Flash コンテンツを持つ単一のファイル (.swf ファイル拡張子)
- 単一の JPEG イメージ (.jpg ファイル拡張子)
- 単一の PowerPoint ファイルを含む ZIP ファイル
- ZIP ファイルとしてパッケージされた Adobe Presenter コンテンツ

PowerPoint ファイルはプレゼンテーションに変換されます。PowerPoint プレゼンテーションには、アニメーションと音声ボイスオーバーを含めることができます。プレゼンテーションを共有する場合、共有ツールにはプレゼンテーションをナビゲートするコントロールが表示されます。共有ツールでプレゼンテーションとして共有するためのドキュメントをアップロードする場合は、次の制約事項に注意してください。

- PowerPoint 2007 で作成されたファイルは、共有ツールでプレゼンテーションとして変換および共有できません。PowerPoint 2007 ファイルを共有するには、デスクトップから PowerPoint アプリケーションを共有する必要があります。今後のリリースで、PowerPoint 2007 がサポートされる予定です。
- PowerPoint 2000 より古いバージョンで作成されたファイルは、共有ツールでプレゼンテーションとして変換および共有できません。古い PowerPoint ファイルを共有するには、そのファイルを PowerPoint 2000 以降で開いて保存してから、共有ツールにアップロードする必要があります。

新規および追加情報

この項では、現在の Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing マニュアルに含まれていない新規情報および追加情報を示します。この新規情報および追加情報は、特記されていない限り、今後のマニュアル リリースに組み込まれる予定です。

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing コンフィギュレーション ガイド: Web Conferencing サーバでのクロックの調整

この項の情報は、『Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing コンフィギュレーション ガイド』の「Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing の監視および保守」の章に含める必要があります。

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing は、Windows Time Service を使用して Audio Server とクロックを同期させるように Windows サーバを自動的に設定します。システム上で Web Conferencing が動作している間に、コンピュータのクロックを調整することはできません。システムのクロックタイムを調整する場合、または NTP 同期化を行う場合は、Web Conferencing サービスをシャットダウンする必要があります。

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing コンフィギュレーション ガイド: Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing で使用するための SiteMinder の設定



(注) この項の情報は、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Release 6.x のオンライン ヘルプ (管理者用) にも適用されます。

この項の情報は、『Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing コンフィギュレーション ガイド Release 6.x』の「Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing でのユーザ認証の設定」の章に含める必要があります。

認証とシングル サインオンのサポートのために展開に SiteMinder アプリケーションが含まれている場合は、SiteMinder が Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Release 6.x と正しく連携するように、SiteMinder 設定に次の変更を加える必要があります。

URL での文字列ブロックング

SiteMinder は、処理の前に、すべての URL で無効な文字列を検索します。Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing は、「.」(ピリオド)を含む内部 URL を使用しますが、「.」(ピリオド)はデフォルトの SiteMinder 設定によってブロックされます。デフォルトのブロックは、次のとおりです。

```
badurlchars="./,/*,*,~,\\,%00-%1f,%7f-%ff"
```

Web Conferencing を正しく機能させるには、badurlchars 文字列から / を削除する必要があります。次の例を参考にしてください。

```
badurlchars="./,/*,*,~,\\,%00-%1f,%7f-%ff"
```

URL での localhost リダイレクションとホスト名ブロックング

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing は、ポート 8002 での localhost/loopback への接続を含む内部 URL (たとえば、http://localhost:8002) を使用します。SiteMinder は、localhost 要求を受信すると、localhost をサーバの実際のホスト名に解決します。その後、SiteMinder は、ホストのリストでホスト名を検索し、ホスト名をエージェント名に解決します。Web Conferencing を正しく機能させるには、このエージェント名を例外リストに追加して、このエージェント名が SiteMinder によってブロックされないようにする必要があります。

次の例では、ポート 8002 での localhost 要求に関する SiteMinder のロギングを示します。

```
[5812/7912][Tue Apr 24 14:00:07 2007][...\..\CSmHttpPlugin.cpp:219][INFO:2] PLUGIN:
Read HTTP_HOST value 'localhost:8002'.
[5812/7912][Tue Apr 24 14:00:07 2007][...\..\CSmHttpPlugin.cpp:270][INFO:2] PLUGIN:
ProcessResource - Resolved Host 'YOURHOSTNAME:8002'.
[5812/7912][Tue Apr 24 14:00:40 2007][...\..\CSmHttpPlugin.cpp:290][INFO:1] PLUGIN:
ProcessResource - Resolved Agentname 'yourhostname-unprotected' for HTTP_HOST
'YOURHOSTNAME:8002'.
```

最初の行では、SiteMinder がポート 8002 での localhost への要求を処理しています。2 行目では、localhost がマシンの実際のホスト名 (この例では、YOURHOSTNAME) に解決されています。3 行目では、YOURHOSTNAME:8002 が、SiteMinder の設定で yourhostname-unprotected と定義されているエージェントに解決されています。要求を成功させるために SiteMinder が許可する (ブロックしない) 必要があるのは、このエージェント名です。

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing コンフィギュレーション ガイド : Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing のホーム ページへのロゴの挿入



(注)

この項の情報は、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Release 6.x のオンライン ヘルプ (管理者用) にも適用されます。

この項の情報は、『Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing コンフィギュレーション ガイド』の「Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing の設定」の章の「Web サーバの設定について」の項に含める必要があります。

次の手順を使用すると、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing のホーム ページに企業ロゴまたはブランク ロゴを挿入できます。

始める前に

- 148 x 65 ピクセル以下のロゴを指定して、それを logo.gif として保存します。これより小さなロゴはこの領域で正常に機能しますが、ロゴがこれより大きい場合、ページのコンテンツが右にずれずれます。
- (オプション) Web Conferencing のホーム ページにロゴを組み込まない場合は、148 x 65 ピクセルのブランク ファイルを作成して、それを logo.gif として保存します。

Web Conferencing のホーム ページにロゴを挿入する

ステップ 1 logo.gif ファイルを drive:\Program Files\Cisco Systems\MPWeb\Images にコピーします。

挿入したロゴが Web Conferencing のホーム ページに表示されるのは、次回に Web ブラウザを開いたときです。

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing コンフィギュレーション ガイド: ビデオ端末の複製に関する問題

この項の情報は、『Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing コンフィギュレーション ガイド Release 6.x』の「Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing のトラブルシューティング」の章に含める必要があります。

Cisco Unified MeetingPlace Video Integration が Segmented Meeting Access 構成内の外部 Web サーバまたはサーバクラスタ上で展開される場合、すべての内部 Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing サーバにも Video Integration がインストールされている必要がありますが、それらの Video Integration が非アクティブである必要があります。これにより、これらのサーバ上で Replication Service の [Update All Terminals] コマンドを使用して、Cisco Unified MeetingPlace Video Administration からビデオ端末のリストを手動で更新できます。

ただし、内部サーバに Video Integration がインストールされている場合でも、その内部サーバのオンライン管理インターフェイスに [Update All Terminals] コマンドが表示されないことがあります。この問題を解決するには、次の手順を実行します。

Replication Service の [Update All Terminals] コマンドをアクティブにする

ステップ 1 各 Web Conferencing サーバで、[Host Video Conferences] 設定を確認します (この設定は、DMZ (外部) サーバでオンになっており、その他すべての内部および外部サーバでオフになっている必要があります)。

- a. Windows の [Control Panel] で、[MeetingPlace Gateways] をダブルクリックします。
- b. [Video] タブをクリックします。
- c. [Host Video Conferences] チェックボックスが、適切にオンまたはオフになっていることを確認します。



(注) [Host Video Conferences] 設定を変更する必要がある場合は、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing サービスを停止し、値を変更してから、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing サービスを再起動する必要があります。

- ステップ 2** 問題が発生した内部 Web サーバから、システム管理者レベルのユーザ プロファイルを使用して、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing にサインインします。
- ステップ 3** [ようこそ] ページで、[Admin]、[Web Server] の順にクリックします。
- ステップ 4** [View] セクションで、DMZ Web サーバの名前をクリックします。ページの上部に DMZ サーバの設定データが表示されます。
- ステップ 5** どの設定フィールドも変更せずに [Submit] をクリックします。
- ステップ 6** [Back] をクリックします。
- ステップ 7** [Replication Service] をクリックします。[Replication Service] ページが開きます。
- ステップ 8** [Replication Service Command] ドロップダウン メニューに [Update All Terminals] フィールドが表示されるかどうかを確認します。

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing コンフィギュレーション ガイド : Web 会議での共有に関する問題

この項の情報は、『Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing コンフィギュレーション ガイド』の「Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing のトラブルシューティング」の章の「Web 会議での共有に関する問題」の項に含める必要があります。共有問題に関する既存の項に記載されている原因がどれもあてはまらないことを確認した場合は、次の手順を実行してください。

クライアント マシン上で Cisco Unified Presenter Add-in の診断ログを収集するには、次の手順を実行します。



注意

過度のロギングは、会議室のクライアントおよび Cisco Unified Presenter Add-in のパフォーマンスに影響を及ぼします。問題のトラブルシューティングを行うときだけロギングを有効にして、トラブルシューティングが終了したら無効にしてください。

Cisco Unified Presenter Add-in の診断ログを収集する

- ステップ 1** テキスト エディタで新しいファイルを開きます。
- ステップ 2** PlayerLogging=1 と入力し、Enter キーを押します。

ステップ 3 そのファイルを次の場所に `mms.cfg` として保存します。

- Microsoft Windows マシンの場合は、Windows がインストールされているフォルダの System32 フォルダ (たとえば、`C:\Windows\System32\mms.cfg`)
- Macintosh マシンの場合は、`MacintoshHD/Library/Application Support/Macromedia` フォルダ

デバッグ出力は、Windows マシンの場合は `<ドライブ>:\Documents and Settings\<ログイン名>\My Documents\ciscounifiedaddin6x0.log` に、Macintosh マシンの場合は `~` フォルダに記録されます。

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing コンフィギュレーション ガイド : 記録サイズ

この項の情報は、『Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing コンフィギュレーション ガイド Release 6.x』の「最適データ ストレージのための Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing の設定」の章の「Web Conferencing のデータ ストレージについて」の項に含める必要があります。

記録された会議でドキュメントが共有されない場合でも、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing は会議コンソールを記録し、その記録を音声と Web が同期された Flash 形式に変換します。音声参加者が会議に参加しない場合、会議コンソールは、音声コンポーネントのない Flash 形式で記録されます。

表 5 は、音声だけの記録で必要になるおおよそのディスク領域と、各 Web コラボレーション モードで必要になる追加のディスク領域を示しています。Web 会議の構成要素には、アプリケーション共有、プレゼンテーション、ホワイトボード、および注釈があります。画面共有の場合、記録の実際のサイズは、共有画面の解像度、画面の変更頻度、およびデータ圧縮度によって決まります。

表 5 必要なおおよそのディスク領域

形式	時間あたりに必要なおおよそのディスク領域
音声だけの形式	
Cisco Unified MeetingPlace 音声形式 (.mpv)	15 MB
WAV 形式 (16 ビット、8kHz PCM)	55 MB
MP3 形式 (32 kbits/s のサンプリング レート)	19 MB
Windows Media 形式 (.wma)	10 MB
音声と Web が同期された Flash 形式	
複数のフォト画質イメージ スライドを含む、11 個のスライドの 6.6 MB PowerPoint ファイルを共有する場合	+2 MB
デスクトップまたはアプリケーションを共有する場合	+40 MB

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing コンフィギュレーション ガイド:LDAP 認証のトラブルシューティング



(注) この項の情報は、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Release 6.x のオンライン ヘルプ(管理者用)にも適用されます。

この項の情報は、『Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing コンフィギュレーション ガイド Release 6.x』の「Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing でのユーザ認証の設定」の章に含める必要があります。

ユーザが認証されない

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing が LDAP 認証用に設定されているが、ユーザが正しく認証されない場合は、Cisco Unified MeetingPlace のイベント ログを確認します。認証が行われるたびに、イベント ログに LDAP メッセージが記録されます。イベント ログにアクセスするには、システムトレイにある Cisco Unified MeetingPlace アイコンを右クリックし、[Eventlog] を選択します。

認証に成功した場合は、イベント ログに次のようなメッセージが記録されます。

LDAP Authenticated user: <username>

認証に失敗した場合は、イベント ログに次のいずれかのエラー メッセージが記録されます。

エラー メッセージ LDAP could not find user: <username>

説明 ユーザが見つかりませんでした (LDAP_NO_SUCH_OBJECT)。

エラー メッセージ LDAP could not authenticate user: <username>

説明 ユーザの認定証が無効です (LDAP_INVALID_CREDENTIALS)。このエラーは、通常、間違ったパスワードを使用することによって発生します。

エラー メッセージ ldap_simple_bind_s failed with error <hexadecimal number>

説明 このメッセージは、ユーザが見つからないまたは認定証が無効という理由以外で認証に失敗した場合に記録されます。エラー コードの 16 進数が、失敗の原因を示します。16 進コードの説明は、<http://msdn2.microsoft.com/en-us/library/aa367014.aspx> で参照できます。

LDAP 識別名に関する一般的な問題

Web サーバに LDAP 認証を設定する場合は、[LDAP Distinguished Name (DN)] フィールドを正しく設定するために次の点に注意してください。

- Cisco Unified MeetingPlace ユーザ プロファイルのログイン名は、17 文字に制限されています。したがって、LDAP での一致は 17 文字以下になります。
- Web Conferencing のディレクトリ設定では、[LDAP Distinguished Name (DN)] フィールドに 1 つの値しか入力できません。ユーザが複数の Organizational Unit (OU; 組織ユニット) に分かれている場合は、DN に DOMAIN\USER 形式または user@ou.domain.com 形式を使用することによって、この問題を回避できます。Web Conferencing で [LDAP Distinguished Name] フィールドを設定する場合は、OU も DC も他のパラメータを指定せずに、%USERNAME% だけを入力します。

LDAP 認証を設定する手順については、「Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing でのユーザ認証の設定」の章の「LDAP 認証について」の項を参照してください。

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing ユーザガイド：会議テンプレートについて



(注) この項の情報は、*Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Release 6.x* のオンライン ヘルプにも適用されます。

この項の情報は、『*Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing ユーザガイド*』の「会議テンプレートについて」の項に含める必要があります。

外部会議では、ユーザ定義の会議テンプレートを使用できません。会議をスケジュールするときに [外部 Web 参加者を許可] パラメータを [はい] に設定した場合は、事前定義テンプレート (コラボレーション、プレゼンテーション、ウェブ 세미나) からしか選択できません。カスタム テンプレートを使用するには、[外部参加者を許可] を [いいえ] に設定する必要があります。後で会議を更新または再スケジュールして [外部参加者を許可] を [はい] に設定すると、会議テンプレートはコラボレーション テンプレートにリセットされます。カスタム テンプレートでスケジュールした会議が開始された場合、その会議を外部会議に拡大することはできません。

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing ユーザガイド：内部サーバから外部サーバへの会議の拡張



(注) この項の情報は、*Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Release 6.x* のオンライン ヘルプにも適用されます。

この項の情報は、『*Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing ユーザガイド*』の「内部サーバから外部サーバへの会議の拡張」の項に含める必要があります。

会議を拡大するために満たす必要のある要件のリストに、次の要件を追加する必要があります。

- 会議が、事前定義テンプレート (コラボレーション、プレゼンテーション、またはウェブセミナー) でスケジュールされている。

トラブルシューティング情報

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products_installation_and_configuration_guides_list.html (英語版) の『*Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing コンフィギュレーション ガイド Release 6.x*』にある「Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing のトラブルシューティング」の章を参照してください。

技術情報の入手方法、サポートの利用方法、およびセキュリティ ガイドライン

技術情報の入手、サポートの利用、技術情報に関するフィードバックの提供、セキュリティ ガイドライン、推奨するエイリアスおよび一般的なシスコのマニュアルに関する情報は、月刊の『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。ここでは、新規および改訂版のシスコの技術マニュアルもすべて記載されています。次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

CCVP, the Cisco logo, and the Cisco Square Bridge logo are trademarks of Cisco Systems, Inc.; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn is a service mark of Cisco Systems, Inc.; and Access Registrar, Aironet, BPX, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, CCSP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Enterprise/Solver, EtherChannel, EtherFast, EtherSwitch, Fast Step, Follow Me Browsing, FormShare, GigaDrive, HomeLink, Internet Quotient, IOS, iPhone, IP/TV, iQ Expertise, the iQ logo, iQ Net Readiness Scorecard, iQuick Study, LightStream, Linksys, MeetingPlace, MGX, Networking Academy, Network Registrar, Packet, PIX, ProConnect, ScriptShare, SMARTnet, StackWise, The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient, and TransPath are registered trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or Website are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (0705R)

このドキュメントで使用しているインターネット プロトコル (IP) アドレスは、実在のアドレスではありません。ドキュメント中で示される例、コマンドの画面出力、および図は、いずれも視覚的な説明のみを目的としています。実在する IP アドレスが例示されていた場合、それらは意図して使用したものではありません。

Copyright © 2007 Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.

お問い合わせは、購入された各代理店へご連絡ください。

シスコシステムズでは以下のURLで最新の日本語マニュアルを公開しております。
本書とあわせてご利用ください。

Cisco.com 日本語サイト

http://www.cisco.com/japanese/warp/public/3/jp/service/manual_j/

日本語マニュアルの購入を希望される方は、以下のURLからお申し込みいただけます。

シスコシステムズマニュアルセンター

<http://www2.hipri.com/cisco/>

上記の両サイトで、日本語マニュアルの記述内容に関するご意見もお受けいたしますので、
どうぞご利用ください。

なお、技術内容に関するご質問は、製品を購入された各代理店へお問い合わせください。



シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂 9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先 (シスココンタクトセンター)

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter>

0120-933-122 (通話料無料)、03-6670-2992 (携帯電話、PHS)

電話受付時間: 平日 10:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00